



新春を迎えて

愛知県知事 大村秀章



あけましておめでとうございます。
新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。
昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、アフターコロナへの動きが加速する中、安心な日常生活を取り戻し、社会経済活動を回すための取組をオール愛知一丸となって進めてまいりました。

そうした中、昨年は、新たに「ものけの里」が開園した「ジブリパーク」を始め、国内最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」や「愛知国際アリーナ」の整備を着実に推進するとともに、2026年の愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けた準備をしっかりと進め、愛知を更なる「飛躍」へと導く1年とすることができました。

また、国に先駆けて取り組んだ「少子化対策パッケージ」や、本県独自の「休み方改革プロジェクト」など、時代の流れを見極めながら、愛知が「ファースト・ベンチ」となり、様々な取組に果敢にチャレンジした1年でもありました。

世界は、グローバル化やデジタル化の加速度的な進展、SDGs実現に向けた潮流など、大きく変化をしています。こうした変化に的確に対応し、将来にわ

たり、愛知が成長を続けていくためには、何より、愛知を支える「人づくり」が重要となります。

今年も、日本の未来を形作るビッグプロジェクトを着実に進めるとともに、新時代を担う人材の育成・発掘に力を注ぎ、「日本一元気なあいち」の実現を目指してまいります。

今年3月には、ジブリパーク最大のエリアである「魔女の谷」が開園し、フルオープンを迎えます。また、10月には、「STATION Ai」がいよいよ開業します。世界中から、最先端の技術・サービス、人材を愛知に呼び込み、新たなイノベーションを次々と創出することで、更に人材が育ち集まってくる、そうした人材の好循環を生みだし、更なる愛知の成長につなげてまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、社会インフラ整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様のご生活と社会福祉の向上にも力を注いでまいります。

引き続き、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2024年元旦

理事長あいさつ

愛知県母子寡婦福祉連合会 理事長 山本広枝



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
年始から大きな地震が能登半島を中心とした地域を襲いました。改めて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

さて、平素よりひとり親家庭寡婦福祉事業の推進に多大なるご理解ご協力ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

私たちの生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症が5類となつて約8ヶ月が過ぎ、周囲を見てもマスクを外す人が増えるなど、社会はポストコロナに向けて大きな一歩を踏み出しています。しかし、およそ3年間に渡る未曾有のコロナ禍の影響は大きく、不安定な雇用形態の者が多いひとり親家庭・寡婦家庭の就労状況も起因して、長引いたコロナ禍と食品、生活用品の止まることない物価高騰の追い討ちは、弱い立場のひとり親家庭及び寡婦家庭の暮らしに未だ打撃を与え続けています。

こうした中、当会では、「収入がなくなった・減った」「生活が苦しい」との声に応え、少しでも笑顔になって、少しでも前向きになって欲しい」との想いから、令和4年3月から「金山駅南口「金山にぎわいマルシェ」の一角で、アウトリーチの活動『ひとり親家庭フードパントリー & 無料相談会』(以下、居場所)を開始しました。毎月1回継続しており、令和5年12月までに合計22回の開催を行い、延べ約1,900世帯約2,800人のひとり親家庭の親子に明るい笑顔と元気を届けることができています。

この居場所では寄り添い型の無料相談会を実施しており、好評を得ています。就労や生活、健康、住まい、不登校に関する相談に専門家が乗り、支援事業、支援機関や行政窓口にも繋げることが可能です。キッズコーナーを常設してい

るため、落ち着いた環境で相談会を行うことができるだけでなく、時には子どもの職業体験も実施しており、家族ともに楽しい居場所と好評を得ています。

核家族化が進んでいる昨今では、寄り合いや支え合う場が少なく孤立しがちです。孤立しがちなひとり親家庭の親子や寡婦家庭にとって、頼る人、頼る場所が必要であり、当会が実施している居場所は、地域や社会の連携にも繋がっています。

また、当会では多くの「第3の居場所」も作っています。「白ゆりわいわいカーニバル」「白ゆりスポーツフェスタ」「講習会」「セミナー」「交流会」「職業体験会」「学習会」等、同じ環境のひとり親家庭・寡婦家庭が寄り添う居心地の良い「第3の居場所」と好評を得ています。

更に、その他の「第3の居場所」としては、当連合会には、愛知県内22地区区母子寡婦福祉会の存在があります。経験豊かな頼もしい寡婦の皆様のお力をお借りして、可能性を秘めた若いお母さんと未来を拓く子ども達が力を合わせ、世代を超えて寄り合う、寄り添う、居心地の良い「第3の居場所」があります。それぞれの各地区で催しも違いますが、孤立しがちなひとり親家庭の親子や寡婦家庭にとって、頼る人、頼る場所になっています。

多くの居場所を継続開催するにあたって、行政・社協・関係団体・支援団体・企業様・個人様の皆様のご厚意のご支援ご協力応援があり、成り立っています。心より感謝申し上げます。

本年が皆様にとって素晴らしい1年になりますことを心から祈るとともに、各地区母子寡婦福祉会始め応援いただきます関係者団体・個人様とのつながりを大切に、それを力として、ひとり親家庭寡婦福祉の充実と活動の活性化に努めてまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。